令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号　２０６　豊玉南小学校

	課題分析	授業改善策
１年	【国語科】 ・教師や児童の話最を後まで集中して聞くことが難しく、継続的な支援や環境調整を要する。 ・ひらがな表を参照した正確な筆記は可能である。一方、鏡文字の出現や、全体の字形・バランスに課題が見られる。 ・拗音、促音、長音および「は、を、へ」といった助詞の定着に向け、反復して正しく使用できる機会や時間の確保が必要である。 ・ひらがなの単音読みにとどまる児童が数名いる。言葉や文のまとまりとして意味を捉えながら読む指導が必要である。また、語彙力や読解力の個人差が著しい。	・集中を維持して他者の話を最後まで聞く力を育てるため、視覚的な手がかりの提示や環境の工夫をする。 ・ひらがなや文作りの学習では、言葉遊びや言葉探し、短文作りの課題を繰り返し行い、正しく表記できるようにしていく。また、空中に大きく腕を使って字を書く「空書」や、背中に文字を書いて当てるゲームで形を体感させる。 ・朝の会や国語の授業の最初の５分間を「特殊音・助詞のミニクイズ・音読タイム」とし、定着を図るようにする。 ・文章を読む前に、出てくる重要な言葉の意味をイラストや写真で見せて、「言葉のイメージ」を持たせてから読ませるようにする。
２年	【国語科】 ・言葉によって自分の考えを伝えたり、自分の考えに自信をもつことができなかったりする児童が多い。児童が主体的に学習できるように、語彙を増やしたり自分の言葉で表現したりできる指導の工夫が必要である。 ・１年生の学習で学んだ助詞の使い方や、カタカナが定着していなかったり、拾い読みをしないと音読ができなかったりするなど、語彙や能力の差が大きい。	・ペアやグループで発表したり、学習シートから教員がよいと思う意見を発表したりするなど、自分の意見に自信をもって発表できるような学習形態を工夫していく。 ・語彙を増やすため、教科書に出てくる言葉の意味を理解し活用する練習問題に取り組む。 ・日々の学習や生活の中で、気になる言葉を確認したり、感想を書いたりと表現できる機会を増やす。
３年	【国語科】 ・児童の意見を基に課題を設定したり、話し合い活動を多く取り入れたりしたことで、物語文を読むことや友達と意見を交流するのが楽しいという児童が多く見られるようになった。しかし、自分の思いを発表するのが苦手な児童も多く、個人差が見られるため、指導の工夫が必要である。 ・語句や助詞の使い方の定着にも個人差が見られる。また、既習漢字の活用も苦手な児童が多い。基礎学力の定着に向けて指導方法を改善していく。	・児童が自分の考えをまとめる際に、学習シートを数種類用意し、自分の能力に合わせて選べるようにする。グループでの話し合いの際に司会シートを用意したり、発表の際の話型を示したりするなど、話し方の基本形を提示することで、自信をもって話したり発表したりできるようにしていく。まずはペア、次に少人数のグループ等と段階を踏んで話し合い活動を取り入れ、意見交流に慣れさせる。 ・朝のモジュールの時間に視写などを取り入れ、語句や既習漢字の復習を行う機会を増やしていく。
４年	【国語科】 ・自分の考えを発言することに対して意欲がもてず、学習に対して受け身の児童が多い。児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導の工夫が必要である。 ・物語文の学習では、登場人物の気持ちの変化を叙述に基づいて読み取る学習が身に付いている児童が少ない。 ・語彙が少ないために、文章を正しく読み取ったり、自分の思いを豊かに表現したりできる児童が少ない。既習漢字を使っての文章表現が苦手である。	・これまでの学習で、自己学習、グループ学習、全体学習という学習の流れは身に付いてきた。グループ学習では、さらに話型を使ったり、誰かの意見をもとに話し合いを進めたりするなど内容の改善をしていく。全体学習では意図的な指名をして自分の考えに自信をもたせていく。 ・叙述から考えの根拠を導き出せるよう、サイドラインを引かせたり、学習シートを工夫したりしていく。 ・辞書に触れる機会を多くもち、難解語句を放置しない。また、新出漢字の様々な用法にも触れて語彙を増やす。
５年	【国語科】 見通しをもって学習を進めている児童は 86%、授業の終末に考えを調整している児童は 74%と比較的高い。一方で、自分で課題を立てている児童は 68%、全体学習で意欲的に発言している児童は 50%、学んだことを別の場面で使う等の発展的な学習意欲は 56%、生活への活用は 44%にとどまり、学びの定着や日常への汎化が不十分である。個々の問題意識を高める導入の工夫や、全体で安心して発言できる環境作り、実生活と結び付いた言語活動の充実が必要である。	日常的に物事に疑問をもつ姿勢を大切にし、児童が自然と問いを立てられる導入の工夫を行う。特に第１時では、物語文を直観的に読んでどう感じたかということや、説明文を読んで筆者の主張を捉えさせてから課題を立てるようにする。また、全体発言への抵抗感を減らすため、グループ学習で考えを話す場を毎時設定し、安心して発信できる環境を整える。全体学習では、叙述を基に考えを深める言語活動を充実させ、単元末には学習内容を日常の事象と関連付ける感想文を書く時間を設けることで、実生活へ活用する態度を育む。
６年	【国語科】 学習過程を事前に把握しながら進めている児童が概ね８割を超える。５月に行った物語文「帰り道」では『学習課題を自分で立てている』という児童が７０％であったが、一部の児童の発言で学習課題を立てている場面も多い。課題意識をもち、児童自ら課題を設定し解決できるようにしていくことが必要である。そして、学習内容を評価基準に基づいて自己評価し、自己調整学習をしていくことが今後の課題である。	物語文や説明文で学習の仕方を児童と確認しながら、毎時間の課題を児童の疑問を基に設定していくようにする。また、児童の能力差に応じた学習シートを作成し、主体的に学習し、確実に課題解決できるようにする。物語文では、登場人物の人物像や心情を想像しながら読み、活発に意見を交流することができるようにする。説明文では、文章にラインを引きながら根拠をもって考えをもつことができるようにする。
専科	【音楽科】 ・楽器の奏法や声の出し方などの基礎的な技能が概ね身に付いている児童が多い。既習の知識や技能を活用しながら、主体的に新たな技能を身に付けることが課題である。 ・聴き取ったことと感じ取ったことを基に、児童同士の対話を通して表現を工夫したり、音楽を聴き深めたりすることが課題である。	・教材研究を通して題材の系統性を整理し、既習曲を意図的に導入に位置付けたり、振り返る場面を設定したりすることで、児童自ら学びをつなげられるようにする。 ・児童の気付きや発想を引き出し、生かす教師側の発問、対話を行う。また交流する場面を多く設定し、音や音楽との対話による考えや表現を深められるようにしていく。